実践団体情報

記入日	西暦　2022 年 1 月 14 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会
代表者名	横山　俊一
プラン全体のタイトル	地域でつくる防災フォトロゲイニング
電話番号	026-238-4087
メールアドレス	yokoyama_shunichi@shinshu-u.ac.jp
実践団体の説明	地域防災の普及を目指し、信州大学、伊那市役所、伊那市有線放送農業協同組合、上伊那広域消防本部の有志で立ち上げた団体です。設立前から地域防災に関わる活動に積極的に関わってきたメンバーが、2020 年に長野県伊那弥生ケ丘高等学校の総合学習に関わることになり、新たな地域防災の仕組みづくりのため活動を開始しました。
所属メンバー	横山　俊一（代表）信州大学 小松　剛　　伊那市役所 菊田　文太郎　伊那市有線放送農業協同組合 樋代　亜希子　伊那市有線放送農業協同組合 藤根　正和　　上伊那広域消防本部
活動地域	長野県伊那市
活動開始時期・結成時期	2020 年活動開始・2019 年結成
過去の活動履歴・受賞歴	第 3 回伊那市 LoRaWAN ハッカソン(2017 年度)にてメンバーが運営、各種課題の講師を行った。

プラン全体の概要	防災の重要性は総じて社会全体に浸透しているが、「我がこと」として具体的・実行的な取り組みは少なく、報道等で被災地の状況を知り意識する程度が実態です。このような意識を変容させるには、楽しみながら防災意識を醸成し、防災を日常生活に取り入れることが大切です。 本プランでは、地域住民と高校生が協働で作成した防災マップをもとに、防災フォトロゲイニング大会の企画・運営を行い、参加者の防災意識向上、新たな地域防災活動の取り組みの端緒の獲得を目指します。

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
４月	授業	関係機関との打ち合わせ	
５月	フィールドワーク下見	フィールドワーク資料作成	
６月	授業・フィールドワーク	関係機関との打ち合わせ フィールドワーク資料作成	学校周辺の観光資源と防災資源のフィールドワーク
７月	授業・フィールドワーク・高遠合宿	フィールドワーク下見 フィールドワーク資料作成	土砂災害地フィールドワーク 高遠での合宿
８月		関係機関との打ち合わせ	合宿について、ラジオ番組にて報告
９月	授業	各活動についての打ち合わせ	
10 月	授業		メンバーを中心とした地域防災に関する新聞連載の開始
11 月	授業	ワークショップ準備	非常食についてのワークショップ開催
12 月	授業	関係機関との打ち合わせ 地域探求プログラム発表プレゼン準備	地域探求プログラムにて発表を実施
１月	授業	最終発表会プレゼン準備	
２月	最終発表会		学内の探求授業において３グループに分かれ発表を実施
３月	高遠住民懇談会	懇談会準備	学生と住民による防災マップを仲立ちとした懇談会

プラン全体の反省点・課題・感想	授業の急な変更等により、時間が足りないこもともあったが、複数回のフィールドワークの開催、地域組織との連携の深化など今後の実りがあった。
今後の活動予定	新たな地域組織との連携をプラスにして、より進化した体制作りを目指していく。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2022 年 1 月 14 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会
実践番号	1
タイトル	学校周辺の観光・防災スポットを探すフィールドワーク
実践担当者のお名前	横山俊一

実践にかかった金額	5000 円
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	2021 年 6 月 17 日 14 時 30 分～6 月 3 日 16 時 30 分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	4 人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約　10　人
実践を行った都道府県と市区町村	長野県伊那市
実践を行った具体的な場所	伊那市西町　伊那部宿周辺
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	1/2500 国土基本図、1/25000 地形図、デジタルカメラ、画板、周辺地域の資料、等高線読図、メモの重要性

達成目標	学校周辺に興味関心を持ってもらい、同じもの全員で観察し共通の認識を持つことを目的とした。観光だけではなく災害時に活用できるものとして横井戸の水を確認してもらい、集落の立地と水のかかわりについても考えてもらうことを想定した。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	・目的：高遠フォトロゲコースマップのポイント探索のプレ調査 ・FW のポイント： ①住民が気づかないものを掘り起こし ⇒気が付いているけど当たり前すぎて意識しない・気づいてない ②住民視点 ③調査者の視点（詳しくは収集ポイント） ・目標収集ポイント数： ①25 箇所以上 ②写真枚数は無制限 ・収集ポイント： ①災害時や日常で危険そうな箇所 (出口の見えないカーブ、狭い車道、道路の段差・ひび割れ、崩れそうな塀、普段水のない水路、、、) ②琴線にふれたもの（トマソン、崖、玄関・家屋の形状、蔵、地域猫、駐車中の馬、畑の作物、、、） ③災害時に役立ちそうなもの(井戸、用水路、空き地、消火栓、自動販売機、公園、、、) ④災害注意のしらせ（交番、カーブミラー、水防倉庫、防災倉庫、流量計、遊水地、AMeDAS、、、） ⑤景色の良い箇所（高台からの眺望、景観全体でかっこよい、崖の形が〇〇に見える、、、） ⑥住む地域と異なるもの ⑦ちょっとでも気になったものは収集！！ ・収集方法： ①写真を撮る(複数アングルで撮っておくと後で新たな発見がある(全体、近景)) ②地図に場所を記入（メモを地図の余白に入れておく、時間を入れると後で整理しやすい） ③住民がいれば挨拶して、収集できるものを積極的にリサーチしてください ・収集データについて ①後日、全員の収集データを 1 枚にまとめる

	②データを基に、高遠での収集基準の検討 	
得られた成果	・身近な地域にある様々な事象に興味関心を持ってもらうきっかけとなった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	・事前の学習に充てる時間がなく、ほぼ、ぶっつけ本番の状況となってしまった。 ・発見した事柄をデータとして活用する重要性について説明する時間がなかった。後日の授業で説明したが、現地で行うほうがより良かったと感じている。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	なし
関係者の説明	なし
関係者の連絡先	なし

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	すべての人
伝えたい内容	フィールドでの学びは重要であるということ

記入日	西暦 2022 年 1 月 14 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会
実践番号	2
タイトル	実際の災害現場と周辺環境を考える
実践担当者のお名前	横山俊一

実践にかかった金額	5 万円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 7 月 1 日 14 時 30 分～16 時 30 分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	4 人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約　10　人
実践を行った都道府県と市区町村	長野県　伊那市
実践を行った具体的な場所	伊那市西春近　前沢川　柳沢集落
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	災害発生時に対応を行った人、移動用バス、土石流等の基礎知識、読図

達成目標	実際の災害現場において同じもの全員で観察し共通の認識を持つことを目的とした。発災後に設置された堰堤などの河川工作物の目的を知ってもらい、周辺環境と災害との関連を意識してもらうことを目指した。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">徒歩にて対象地域をまわり、以下の内容の説明を元伊那市役所職員の方からうけた。最後に現地においてディスカッションを行った。

①周辺地域を含めた被災状況について
②土砂災害について
③地域のとりくみについて
④森林のもつ公益機能について
⑤災害時の行政のうごきについて

上空から見た前沢川と柳沢集落の被災状況

</td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">現在では被災時の面影はほとんど見られない状況であるが、現地での写真を使った説明のおかげで、当時の様子を意識することができたようである。また、フィールドワーク直前に近隣市町村において、同様な災害が発生し、亡くなった方もいたことからある程度自分事として意識することもできたようである。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">当日はかなり強い雨も降りあいにくの天候であったが、土砂災害について意識する良い機会であった。</td></tr>
</table>

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	唐木好美・信州大学産学官連携推進室（元伊那市役所）
関係者の説明	伊那市役所在籍時、発災直後から現地に入り、住民対応等を行った。
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	すべての人
伝えたい内容	当事者や現地での解説を行うことによって、過去に発生した災害について意識してもらうことも可能である。

記入日	西暦 2022 年 1 月 14 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会
実践番号	3
タイトル	合宿前究明講習 Web 受講
実践担当者のお名前	藤根正和・横山俊一

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 7 月 15 日 14 時 30 分～16 時 15 分
実践の所要時間	2 時間
実践の運営側で動いた人の人数	5 人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約 10 人
実践を行った都道府県と市区町村	長野県　　伊那市
実践を行った具体的な場所	伊那弥生ヶ丘高等学校
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	消防職員、タブレット、web 回線

達成目標	救命救急の基礎を学ぶことで、災害時の対応について意識してもらうことを目的とした。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	高遠合宿にて救命救急講習を実施するにあたり、当日の時間を有効につかうために、事前に Web による受講を行うとともに、実行委員会メンバーによる救命救急の講義も併せて実施した。 	
得られた成果	災害を意識してもらうモチベーションの一つとして、救命救急講座の受講をしてもらった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	Web による講座受講は、各自の端末によって接続がうまく進まないこともあり、時間内で終わらない生徒もいた。そのため帰宅後に自宅での対応してもらった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	国立青少年自然の家職員
関係者の説明	合宿時のスケジュール説明と端末設定の協力をお願いした。
関係者の連絡先	

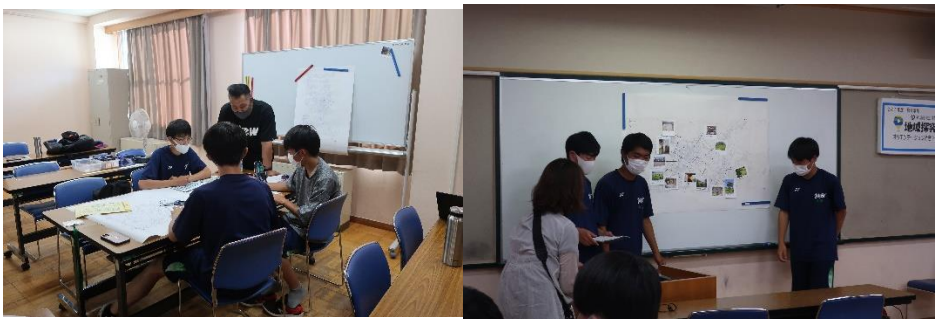
★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	すべての人
伝えたい内容	パソコン、タブレットの準備を事前に済ませていても、当日にうまく動かないなどのトラブルは必ずあるので、代替案を用意する必要を痛感しました。

記入日	西暦 2022 年 1 月 14 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会
実践番号	4
タイトル	高遠フィールドワーク合宿
実践担当者のお名前	横山　俊一

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	数週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 7 月 24 日 8 時 30 分～7 月 25 日 17 時
実践の所要時間	16 時間
実践の運営側で動いた人の人数	14 人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約 10 人
実践を行った都道府県と市区町村	長野県　伊那市
実践を行った具体的な場所	伊那市高遠町
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	観光事業に携わる人、地元の歴史家、消防職員、地図、デジカメ

達成目標	合宿前に実施した観光と防災のフィールドワークの共通認識をもとにしてグループでこれまでに無い観光と災害・防災にかかわるスポットの収集を行い、新たな知見と防災に関する意識向上を目的とした。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">現地到着後、地域概要を地元住民に説明してもらい、その後各グループで調査を実施した。調査の間に救命救急講習の実技講座を実施した。

調査結果は合宿 2 日目の午後に発表を行った。
  </td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">調査によりオリジナルのデータを得ることで、地図にこれまでない情報がはいったことで達成感を得ることができたとの意見も見られた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>かなり</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>大いに</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">新型コロナの状況もあるが、地域住民や観光客への聞き取り調査がほとんど行うことができなかったのが残念である。</td></tr>
</table>

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	国立高遠青少年自然の家、高遠郷土研究会、伊那市地域おこし協力隊
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	すべての人
伝えたい内容	多様な組織の方々のおかげで無事に合宿を行うことができた。今後も様々な方々との連携を進めていくことが大切である。

記入日	西暦 2022 年 1 月 14 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会
実践番号	5
タイトル	伊那北高等学校フィールドワークと防災食から避難所を考えるワークショップ開催
実践担当者のお名前	小松剛・横山俊一

実践にかかった金額	10 万円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 11 月 10 日 8 時 30 分～16 時 00 分
実践の所要時間	8 時間
実践の運営側で動いた人の人数	7 人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約 40 人
実践を行った都道府県と市区町村	長野県伊那市
実践を行った具体的な場所	伊那市美篤、伊那市高遠塩供地区、伊那公民館
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	地形図、長期保存パン、インスタント麺、湯沸かしポット、使い捨て皿・コップ、割りばし、模造紙、ペン、付箋、プロジェクター

達成目標	災害発生場所を直接確認し、自然環境とのかかわりを理解してもうとともに、災害の課題について意識してもらうことを目的とした。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

実践内容・方法	災害現場と福祉施設の立地、災害と地名の関係などについて関係する場所を見学後、昼食で防災食を実食した。その後避難所運営についてのワークショップを行った。 	
得られた成果	災害発生の自然的側面と、災害による被害等の社会的側面の両方を観察・体験することによって、防災の重要性を意識してもらうきっかけとなった。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	かなり
課題・苦労・工夫	コロナ渦問う言うこともあり、災害時の食体験に関してはかなりの苦労があったが、この体験はとても良かったとの意見が多かった。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	伊那市社会福祉協議会
関係者の説明	防災食についてのワークショップへの協力を依頼した
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

伝えたい相手	すべての人
伝えたい内容	様々な面で、これまでとは異なる工夫が必要であるが、体験に勝るものはないということを実感しました。

記入日	西暦 2022 年 1 月 14 日（2021 年度のチャレンジプラン）
実践団体名	信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会
実践番号	6
タイトル	地域防災に関する新聞連載
実践担当者のお名前	横山俊一

実践にかかった金額	ほぼ０円
実践の準備にかかった時間	数ケ月
実践活動を実施した日時	西暦 2021 年 10 月 19 日～2022 年 2 月末
実践の所要時間	
実践の運営側で動いた人の人数	９人
防災教育の対象者の属性	全ての人々
防災教育の対象者の人数	約　　人
実践を行った都道府県と市区町村	長野県南信地域
実践を行った具体的な場所	諏訪市以南の市町村
★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	地域防災に関わる活動を行っている人

達成目標	所属メンバーを中心に、地域防災について実践的活動を行っている方の経験から防災に興味を持ってもらうことを目的としている。	
どの力を身につけようとしましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<table>
<tr><td>実践内容・方法</td><td colspan="2">所属メンバーの日常業務を題材にした記事を執筆してもらい、防災に興味をもってもらうきっかけづくりを目指した。下記記事は伊那弥生ケ丘高校の講義での経験を交えての内容となっている。

長野日報　2021年11月9日付
「識る」からはじまる地域の防災 ④
視点を変えると様々な気づき！
気づきが地域防災力を向上させる
菊田　文太郎

メンバー以外の執筆者は以下の通り
〇安積順子（郷土愛プロジェクト、キャリア教育コーディネーター）
〇奥山加蘭（信州大学大学院教育学研究科、院生）
〇森いづみ（県立長野図書館、館長）</td></tr>
<tr><td>得られた成果</td><td colspan="2">メンバーのモチベーション維持とともに、紙面を読む幅広い世代の読者へアプローチができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">どのくらい身につきましたか？</td><td>知識・技能</td><td>少し</td></tr>
<tr><td>思考力・判断力・表現力</td><td>少し</td></tr>
<tr><td>学びに向かう力・人間性</td><td>少し</td></tr>
<tr><td>課題・苦労・工夫</td><td colspan="2">活動プランの周知の意味も含めて連載を開始した。今後は紙面を骨子とした書籍化をめざし、さらなる防災教育の情勢を目指していきたい。</td></tr>
</table>

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	長野日報社
関係者の説明	
関係者の連絡先	